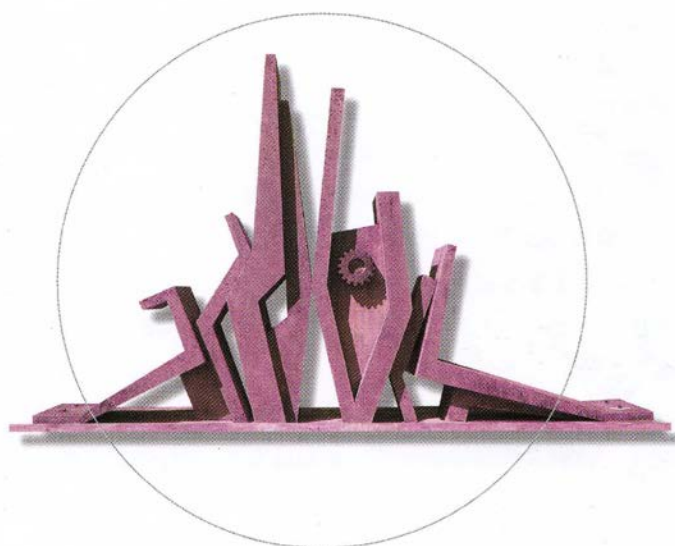


平成26年度

専攻科学生便覧



Amor Omnia Vincit

大分工業高等専門学校

Oita National College of Technology

授 業 時 間

	本 科	専 攻 科
SHR	8 : 4 0 ~ 8 : 5 0	—————
1 限	8 : 5 0 ~ 1 0 : 2 0	
2 限	1 0 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0	
休 憩		
3 限	1 2 : 5 0 ~ 1 4 : 2 0	
4 限	1 4 : 3 0 ~ 1 6 : 0 0	
5 限	1 6 : 1 0 ~ 1 7 : 4 0	

学校所在地

学校 大分市大字牧 1 6 6 6 番地
 〒870-0152
 T E L (097) 552 - 6359 (教育支援係)
 (097) 552 - 6365 (学生支援係)
 F A X (097) 552 - 6440 (学 生 課)

 T E L (097) 552 - 6075 (総務課総務係)

目 次

1. はじめに	2
2. 学習・教育目標と教育方針	2
3. 年間行事予定	5
4. 開設科目	6
5. 修了要件	6
6. 履修方法ならびに手続き	6
7. 学位（学士）の取得	8
8. 「システムデザイン工学」プログラムの修了要件	10
9. 学生生活	11
10. 大分工業高等専門学校学則	15
11. 専攻科における授業科目の履修等に関する規則	16
12. 教育課程表	18
13. 大分高専組織図	20
14. 教員組織(平成26年度)	21
15. 専攻科提出書類(抜粋)	22

1. はじめに

この便覧を手にしてしている皆さんは、既に成人に達しており、社会人として一人前の存在です。本科を卒業して実社会のそれぞれの場で責任を果たしている多くの同級生のことを思えば、引き続き同じ高専に在籍するとは言え、これまでと同じ気持ちであってははいけません。すべてのことに自主的に取り組み、主体性を持って行動することが強く求められます。また、このことが、専攻科における皆さん一人一人の学園生活を実り多きものへと繋げてくれることを確信しています。学生の皆さんは、本便覧をよく読み、本校の学習・教育目標に習熟するとともに、専攻科の修了要件、学位授与要件、そして教育プログラムの修了要件すべてを考慮に入れて、遺漏のないように履修計画を立ててください。

2. 学習・教育目標と教育方針

(1) 学習・教育目標

本校は、「人間性に溢れ国際感覚を備え、探求心、創造性、表現能力を有する技術者の育成」を教育目的として掲げております。この教育目的を実現するために学習・教育目標として以下に示す5つの主目標とそれぞれを具体化した11のサブ目標、19の達成基準を定めた、「システムデザイン工学プログラム」を設定しています。本プログラムを修了するには、これら全ての学習・教育目標を達成する必要があります。

(A)「愛の精神」：世界平和に貢献できる技術者に必要な豊かな教養，自ら考える力，いつくしみの心を身につける

(A1) 自ら考える力を身につける

- (1) 自然や人間の活動を地球的視点から多面的に考察するために必要な基礎知識を有すること
- (2) 情報を収集し，論理的に自らの考えを構築することができること
- (3) 事実と自らの考え，他者の考えと自らの考えとを区別できること

(A2) 技術者としての倫理を身につける

- (1) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を理解していること
- (2) 技術者が社会に対して負っている責任について理解していること

(B)「科学や工学の基礎」：科学の粋を極める技術者に必要な数学，自然科学，情報技術，専門工学の基礎を身につける

(B1) 数学，自然科学の力を身につける

- (1) 数学の基本的な問題が解けること
- (2) 自然現象の本質を問う問題が解けること

(B2) 情報技術，専門工学の基礎を身につける

- (1) 専門性に即して問題を掘り下げる上で土台となる情報技術と専門基礎知識があること

(C)「コミュニケーション能力」：地域や国際舞台での活躍をめざして，多様な文化の理解とコミュニケーションできる力を身につける

(C1) 表現する力，ディスカッションする力を身につける

(1) 自ら表現したいことについて第三者が理解できるように明確に表現でき，そのテーマについて議論できること

(C2) 英語を用いてコミュニケーションできる力を身につける

(1) 英語で表現された文章を理解でき，英語による簡単なコミュニケーションができること

(D) 「技術者としてのセンス」：創造的技術者としてのセンスを磨き，探究心，分析力，イメージ力を身につける

(D1) 探究心，分析力，イメージ力，デザイン能力を身につける

(1) 技術的対象に対して，計測測定を行い，問題を分析することができること

(2) ものやシステムを創造するために結果をイメージして，その結果を得るための方法やシステムなどをデザインすることができること

(3) 問題を深く掘り下げる努力ができること

(D2) 協力して問題を解決する力を身につける

(1) 問題をチームで解決する体験を得ること

(2) 問題解決を分担化し，自らの分担を見定めて行動できること

(E) 「専門工学の活用」：専門工学の知識を修得して，その相互関連性を理解し，これを活用する力を身につける

(E1) 専門工学の知識を獲得する

(1) 自らの専門性に即して，一つの分野を深く掘り下げることのできる専門工学の知識があること

(E2) 工学の相互関連性を理解する

(1) 技術が，ものやシステムの複雑なつながりによって成り立っていることを理解していること

(2) 自らの専門以外の一つ以上の分野について基礎的な知識を有していること

(E3) 専門分野における研究開発の体験を通して問題を発見し，解決する力を身につける

(1) 自らの専門分野において，問題の所在と性質を見極め，その対処法あるいは解決法をデザインし，これを実行することができること

これらの各学習・教育目標の達成度の評価方法ならびに各学習・教育目標を達成するために必要な科目の流れは，「システムデザイン工学プログラム 履修の手引き（2014年度版）」を参照してください。

なお，これらの学習・教育目標は日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定基準1．（1）の（a）～（h）および分野別要件（工学（融合複合・新領域）関連分野）を含んでいます。

(2) 教育方針

【機械・環境システム工学専攻】

機械・環境システム工学専攻では、準学士課程で修得した基礎学力を基盤に、地球環境に関わる各種環境問題にも対応可能な学際的・融合的教育を行っている。

すなわち、機械システムと環境システムとの相互依存関係や高度な機械生産システムに深く関わる教育を展開することにより、専門性に富み、相互に関連した高度技術社会における自己表現能力を育み、グローバルな視野に立った、発想力、構想力、実現化能力を有した研究・開発型創造的技術者の養成を目的とする。

【電気電子情報工学専攻】

電気電子情報工学専攻では、準学士課程で修得した基礎学力を基盤に、電気工学，電子工学，情報工学に関する様々な分野について、より高度で専門的な技術教育を行うことによって、高度情報社会に対応できる新技術の独創的かつ実践的な研究開発能力や解析能力及び問題解決能力を備え、深い教養と広い視野を有する国際性豊かな創造的技術者の養成を目的とする。

3. 年間行事予定

(1) 学年・学期

2 学年とし、前期を 4 月 1 日から 9 月 30 日まで、後期を 10 月 1 日から 3 月 31 日までとします。

(2) 休業日

休業日は、次のとおりです。ただし、特別の必要があるときは、校長は、これらの休業日を授業日に振り替えることができます。(年度により休業日が変わることがありますので、行事予定表で確認してください。)

(a) 国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日

(b) 日曜日及び土曜日

(c) 開校記念日 4 月 22 日

(d) 春季休業 4 月 1 日から 4 月 7 日まで

(e) 夏季休業 7 月 21 日から 8 月 31 日まで

(f) 冬季休業 12 月 25 日から翌年 1 月 7 日まで

(g) 学年末休業 3 月 20 日から 3 月 31 日まで

(h) 専攻科の主な行事

1 年 次 生		2 年 次 生	
行 事	期 日	行 事	期 日
入学式	4 月 7 日		
入学者オリエンテーション	4 月 7 日		
教育プログラム教務説明会	4 月 8 日	教育プログラム教務説明会	4 月上旬
身体測定, 健康診断	4 月 8 日	身体測定, 健康診断	4 月中旬
前期受講科目履修届提出	4 月下旬	前期受講科目履修届提出	4 月下旬
球技大会	5 月中旬	球技大会	5 月中旬
		特別研究中間発表会(第 2 回)	6 月
オープンキャンパス	7 月上旬	オープンキャンパス	7 月上旬
実務実習説明会	7 月中旬		
実務実習	7 月下旬～8 月		
特別研究 I 小論文試験	7 月		
		ディベート試験	9 月上旬
		学修レポートチェック提出	9 月第 2 週の金曜日
前期試験	9 月中旬	前期試験	9 月中旬
実務実習報告会	9 月下旬		
		学位授与申請	10 月上旬
		単位確認	10 月中旬
後期受講科目履修届提出	10 月下旬	後期受講科目履修届提出	10 月下旬
高専祭	10 月下旬	高専祭	10 月下旬
		校内小論文試験	11 月中旬
		学位授与小論文試験	12 月中旬
特別研究 I 研究発表会	1 月上旬		
		特別研究審査発表会	1 月下旬
教科書調査	2 月上旬	総合的試験	2 月上旬
		後期試験	2 月上旬
後期試験	2 月中旬	単位確認	2 月中旬
単位確認	3 月上旬		
		修了式	3 月中旬

4. 開設科目

教育課程は2学年で構成されており、各学年は前期と後期の授業で編成されています。授業は大きく一般科目、共通専門科目及び専門科目からなり、講義、演習、実験、実務実習、特別研究より構成されています。詳しくは、各専攻の教育課程表で確認してください。

5. 修了要件

専攻科の修了には、次の要件を全て満たさなければなりません。

- 一 学則第53条に規定する要件のほか、全ての必修科目を修得したと認められること。
- 二 大分工業高等専門学校システムデザイン工学プログラム履修規則第13条第1項のうち第一号から第四号の修了要件を満たしていること。

6. 履修方法ならびに手続き

(1) 必修科目と選択科目

開設された授業科目のうち必修科目については全科目を、選択科目については所定科目をそれぞれ受講して、成績の評価を受けなければなりません。

(2) 開講科目

授業は講義、演習、実験及び実習のいずれか、またはこれらの併用により行います。

(3) 科目の単位と時間数

各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学習とする内容をもって構成することを基準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して、次の各号の基準により計算します。

- 1) 講義については、15単位時間の授業をもって1単位とする。
- 2) 演習については、30単位時間の授業をもって1単位とする。
- 3) 実験については、45単位時間の授業をもって1単位とする。
- 4) 授業科目1単位につき、講義については11単位時間以上、演習については22単位時間以上、実験については33単位時間以上受講した科目は、これを履修したものと認める。

(4) 授業時間

専攻科の授業は、標準90分(2単位時間)です。

(5) 受講手続き

授業科目の履修に当たっては、年度当初に、別に定める「受講科目履修届」を所定の期日までに提出しなければなりません。

なお、専攻科には履修辞退の制度はありません。履修届提出後の履修辞退は、原則できません。

(6) 実務実習の履修要項

1 学年の夏季休業中に、企業等で 2 週間以上の実務実習を行います。なお、指導は各専攻の専攻副主任が行い、単位認定は実務実習の報告書及び企業等の担当者の報告書に基づき専攻副主任が行います。

(7) 試験

試験は定期試験、再試験及び追試験があります。

定期試験は、前期末及び学年末に実施します。

再試験は、成績評価が 60 点未満の者で、当該科目を履修したと認められた者に行われます。再試験に合格した場合の評価は、60 点とします。なお、選択科目の再試験の実施についてはシラバスを確認して下さい。

追試験は、次の各号の一に該当する理由により、定期試験を受験することができなかった者で、別に定める「追試験願」を所定の期日までに当該担当科目教員を経て教育支援係に提出し、許可を得た者に対し実施します。

- 1) 疾病（診断書又はこれに代わるものの提出を必要とする）
- 2) 忌引
- 3) 学校が命じた場合（懲罰による場合は含まれない）
- 4) その他やむを得ない理由と認められた場合

(8) 成績評価

成績は授業科目ごとに定期試験、追試験の成績及び平素の学習状況等を総合して評価します。なお、成績の評価は、100 点法によって行い、次の評語で区分します。ただし、100 点法による評価が困難な科目については、合格(G)又は不合格とします。

評価	100～90 点	89～80 点	79～70 点	69～60 点	60 点未満
評語	AA	A	B	C	D

(9) 単位認定

成績評価に基づき、AA、A、B、C、または合格(G)に評価された授業科目については、当該授業科目を修得したものとして単位を認定します。

(10) 他の大学等で修得した単位の認定

大学及び他の高等専門学校の専攻科等（以下「大学等」という）で開設されている授業科目の履修を希望する者は、あらかじめ大学等の許可及び本校校長の許可を得た上で、受講科目を届出しなければなりません。これにより修得した単位は、16 単位を超えない範囲

で専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定します。また、他の専攻の専門選択科目を履修し修得した単位は、8単位を超えない範囲で専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができます。

(11) 再履修

単位を認定されなかった授業科目は、原則として次年度において再履修することができます。なお、再履修する場合は、年度当初に、別に定める「受講科目履修届」を所定の期日までに提出しなければなりません。

7. 学位（学士）の取得

学位は「大学評価・学位授与機構」という機関から与えられます。大学評価・学位授与機構の定める高専専攻科生に対する学位授与は、次の条件を満たすことが必要となっています。

【平成25年度以前入学者】

- ① 高等専門学校卒業生
- ② 大学評価・学位授与機構の認定する高専専攻科において下記の単位を修得していること。
 - (a) 2年以上にわたり在籍・修学のうえ、62単位以上を修得していること。
 - (b) 専門の科目を体系的に履修していること。
(本校では、専門の科目を体系的に履修できるカリキュラムになっています。)
- ③ 大学評価・学位授与機構の行う学修成果（レポート）の審査及び試験に合格すること。

学位（学士）の授与を受けようとする者は、学位規則第6条の規定に基づく「学士の学位の授与に関する規程」（平成4年1月14日規程第5号）第4条に基づき、大学評価・学位授与機構の定める様式に従い、下記の書類を10月又は4月に大学評価・学位授与機構に提出しなければなりません。以下に概略を記しますが、詳細は「新しい学士への途（大学評価・学位授与機構）」を参照してください。

- (1) 学位授与申請書 1通
- (2) 卒業証明書（本科）（基礎資格を有する者である旨の証明書） 1通
- (3) ① 単位修得状況報告書 1通
② 単位修得証明書（修得した機関ごとに作成したもの） 1通

10月に修得見込みとして申請した単位については、当該単位を修得後、単位修得証明書を提出しなければなりません。

- (4) 学修成果及び要旨（機構の示す様式） 5部

原則として専攻に係わる特定のテーマについての学修の成果のレポートです。

A4判用紙（1枚40字×30行）で10枚以上17枚以下とその要旨（A4判用紙1枚、1000字程度）を提出。

- (5) 住民票の写し又は住民票記載事項証明書 1通
- (6) 受験票、写真票 1通

(7) その他

審査手数料領収原符・領収証書	1 通
学位審査手数料の郵便為替	
判定結果通知用封筒	1 通
受験票送付用封筒	1 通

【平成26年度以降入学者】

平成26年4月以降入学者は、**新たな学位審査方式**が導入され、この審査方式が適用されることとなります。概略は次のとおりです。

- ① 高等専門学校卒業生
- ② 大学評価・学位授与機構の認定する高専専攻科において、次の単位を修得していること。
 - (a) 2年以上にわたり在籍・修学のうえ、62単位以上を修得していること。
 - (b) 専門科目及び関連科目を合算して40単位以上を修得していること。(この場合、「学修総まとめ科目」は含めない。)
 - (c) 専門科目を31単位以上修得していること。(この場合、「学修総まとめ科目」を含めることができる。)
- ③ 専攻科の最終年次に置かれた授業科目のうち、本校が定めた「学修総まとめ科目」を修得していること。
- ④ 「学修総まとめ科目履修計画書」(10月頃申請、A4判用紙2枚に2,400~3,000字程度)及び「成果の要旨」(専攻科修了確定時に提出、学修・探求の成果の論文としてA4判用紙2枚に2,400~3,000字程度)を提出すること。

詳細な手続き方法等については、現時点で未確定ですので、確定しましたらお知らせいたします。

なお、学位授与要件の詳細や、申請に必要な事項については、各専攻主任に問い合わせてください。

8. 「システムデザイン工学」プログラムの修了要件

本教育プログラムを修了するためには、次の(1)～(5)の要件を全て満たさなければなりません。

- (1) プログラムの各学習・教育目標に対する評価基準を全て満たすこと。
学習・教育目標の達成度は「各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価基準」に定められた基準に基づいて評価されます。
- (2) プログラムの認める単位を 124 単位以上修得していること。
- (3) 本科 4 年次から専攻科 2 年次において、修得した授業時間が 1,600 時間以上（1 時間とは正味 60 分のことである）であること。また、この授業時間には、以下の(a), (b), (c)を含まなければなりません。
 - (a) 人文・社会科学系の科目（語学教育を含む）が 250 時間以上であること。
 - (b) 数学・自然科学・情報技術系の科目が 250 時間以上であること。
 - (c) 専門技術分野の科目が 900 時間以上であること。
- (4) 情報技術・基礎工学科目群の①～⑤の各科目群からそれぞれ 1 科目以上、合計 6 科目以上修得すること。
- (5) 学士取得のための審査に合格していること。
詳細は「システムデザイン工学プログラム 履修の手引き（2014 年度版）」を参照してください。

9. 学生生活

(1) 諸願届等一覧

以下に示す各種書類の詳細や電子ファイルは、大分高専専攻科ホームページに掲載しています。ホームページにアクセスして電子ファイルを利用して提出して下さい。

URL <http://www.oita-ct.ac.jp/senkou/gakusei/index.html>

(a) 交付を受けるもの

種 別	担 当	時 期	備 考
学 生 証	学生支援係	入学時	
学生運賃割引証	学生支援係	随 時	3 日前までに申し込むこと
在 学 証 明 書	学生支援係	随 時	
成 績 証 明 書	教育支援係	随 時	
修了見込証明書	教育支援係	随 時	
学位授与申請予定証明書	教育支援係	随 時	
修 了 証 明 書	教育支援係	随 時	

(b) 届出をするもの

番号等	種 別	担 当	時 期	備 考
1-1	特別研究指導教員届	教育支援係	別に定める期日	
1-2	受講科目履修届	教育支援係	別に定める期日	
1-6	実務実習報告書	専攻主任	終了時	
1-7	外部発表報告書	専攻主任	随 時	
1-9	学会賞等受賞報告書	専攻主任	随 時	
1-10	誓 約 書	学生支援係	随 時	
1-11	英語資格取得届	専攻主任	随 時	
1-12	学習・教育目標達成度 自己評価チェック表	専攻主任	別に定める期日	
1-17	就職試験受験記録	専攻主任	随 時	
1-18	大学院受験記録	専攻主任	随 時	
A-1	証明書発行願	教育支援係	随 時	
A-2	誓 約 書	教育支援係	別に定める期日	
A-3	学生身上異動届	教育支援係	随 時	異動のあった場合はその都度
B-2	住 居 変 更 届	学生支援係	随 時	異動のあった場合はその都度
B-4	自 転 車 通 学 届	学生支援係	随 時	様式第 2
B-7	学 生 調 査 票	教育支援係	別に定める期日	
B-9	交通事故報告書	学生支援係	随 時	
C-1	保 証 書	財 務 係	別に定める期日	異動のあった場合はその都度
—	欠 席 届	教育支援係	その都度	
—	連帯保証人変更届	財 務 係	別に定める期日	

(c) 願い出を要するもの

番号等	種 別	担 当	時 期	備 考
1-3	補充科目履修願	教育支援係	別に定める期日	
1-4	教科書調査票	教育支援係	別に定める期日	
1-5	実務実習願	専攻主任	別に定める期日	
1-8	学生会発表旅費補助申請書	後援会	随 時	
A-4	追 試 験 願	教育支援係	随 時	
A-5	休 学 願	教育支援係	随 時	
A-6	退 学 願	教育支援係	退学しようとするとき	
A-8	復 学 願	教育支援係	休学の理由がなくなったとき	様式第 1
B-1	授業料免除申請書	学生支援係	別に定める期日	
B-3	入学料徴収猶予申請書	学生支援係	別に定める期日	
B-4	車 両 通 学 願	学生支援係	前年度の 2 月中	車両通学しようとする時
B-5	施設・設備使用許可願	学生支援係	その都度	3 日前までに申し込むこと
B-6	合宿研修所使用許可願	学生支援係	随 時	
B-8	アルバイト許可願	学生支援係	随 時	寮生については寮の規則に従うこと
D-1	入 寮 願	学生生活係	その都度	
D-2	退 寮 願	学生生活係	その都度	
D-3	寄宿料免除申請書	学生支援係	別に定める期日	
D-4	長期休暇中在寮許可願	学生生活係	その都度	
—	奨 学 金 申 請 書	学生支援係	別に定める期日	
—	掲 示 物	学生支援係	その都度	

(d) 返納するもの

種 別	担 当	時 期	備 考
学 生 証	学生支援係	有効期間終了時, 退学するとき	

(2) 通学時における車両使用

- (a) 通学生は、車両通学願により、50cc 以下のバイクによる通学を許可します。
 (b) 通学生は、校長が認めた者に限り、自動車による通学を許可します。

(3) 飲酒喫煙

校内及び学校周辺での飲酒・喫煙を禁止します。

(4) 授業料・入学料の免除及び猶予

(a) 入学料免除、入学料徴収猶予

入学前1年以内に学資負担者が死亡した場合又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合には、入学料の全額又は半額を免除する制度があります。また、経済的理由等で納付期限までに納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合は、徴収を猶予する制度があります。

(b) 授業料免除・徴収猶予

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業が優秀と認められる者については、学生の申請に基づき、選考のうえ授業料の全額または半額を免除する制度があります。また、経済的理由等で納付期限までに納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合は、徴収を猶予する制度があります。

(5) 奨学金制度

日本学生支援機構には、学資の支弁が困難と認められ、かつ、学業成績・人物ともに優れ健康である者に、本人の申請に基づき選考のうえ奨学金を貸与する制度があります。予約採用はありませんので、入学後4月の申し込みになります。

第一種奨学金(無利子)の奨学金月額

区 分	貸 与 月 額
自宅通学者	30,000円もしくは45,000円
自宅外通学者	30,000円もしくは51,000円

第二種奨学金(有利子)の奨学金月額

貸与月額	30,000円、50,000円、80,000円、100,000円、120,000円から選択
------	---

詳しくは、日本学生支援機構のホームページを参照して下さい。

また、他にも地方公共団体や財団法人等の奨学金があります。学校に案内があれば、その都度掲示でお知らせします。

(6) 学割証の取り扱い

学校学生生徒旅客運賃割引証(学割証)は、修学上の経済的負担を軽減し、学校教育の振興に寄与することを目的に実施されており、学生個人の休暇・所用による帰省、就職・進学、その他学校行事等への参加等を対象に交付されます。

学割証を必要とするときは、所定の交付願用紙により学生支援係に申し出てください。

(7) 保健衛生・学生相談室

(a) 学生の健康管理のため保健室を設け、校医の指導下で看護師により疾病、傷害に対する応急措置及び軽症者への治療投薬を行っています。

(b) 学生の健康管理の重要な資料とするとともに、疾患を有する学生を早期発見し、適切な治療方法を指導するため毎年度当初、定期健康診断を行います。

(c) 学生が当面する諸問題に関する相談に応じることにより、学生生活の充実と人間的成長を助けることを目的として学生相談室を設けています。相談室では、毎週月・水の15時～17時まで専門のカウンセラーが個別の指導・助言を行っています。

(8) 日本スポーツ振興センター

日本スポーツ振興センターは、学校安全の普及充実を図るとともに学校管理下における学生の負傷、疾病、障害又は死亡に関して必要な給付を行い、学校教育の円滑な実施に資することを目的としています。(掛金は後援会費から納入)

(9) 学生寮

本校には、男子寮、女子寮があり、およそ 200 人の学生が生活しています。専攻科の学生も、入寮希望申請に基づき、審査のうえ入寮が許可されることとなります。

(10) 後援会

大分工業高等専門学校後援会(以下「後援会」という。)は、大分工業高等専門学校の教育事業を援助し協力するとともに、会員相互の親睦を図ることを目的としています。

専攻科学生の保護者は後援会の会員となり、学生 1 名につき年額 13,000 円の会費の納入をお願いしております。

(前期及び後期の 2 期に分ける場合は、前期にあつては 5 月末日までに 6,500 円を、後期にあつては 8 月末日までに 6,500 円を納入してください)。

入会金は 10,000 円とし、入学時に納入します。ただし、本校卒業生は、専攻科入学にあたり入会金は不要です。

(11) 施設利用

(a) 図書館の利用方法

別途配布する「図書館利用案内」を参照してください。

(b) 総合情報センター利用方法

総合情報センターに利用者登録をした後に、利用が可能です。利用規程等については、ホームページを参照してください。

(c) その他の施設の利用方法

その他の施設の利用方法については学生支援係に問い合わせてください。

10. 大分工業高等専門学校学則

大分工業高等専門学校学則（専攻科に関する第8章を抜粋）

第8章 専攻科

（設置）

第45条 本校に、専攻科を置く。

（目的）

第46条 専攻科は、高等専門学校教育の基盤の上に、更に高度な専門知識と技術を教授し、創造性豊かな人材を育成することを目的とする。

（専攻及び入学定員）

第47条 専攻及び入学定員は次のとおりとする。

専攻	入学定員
機械・環境システム工学専攻	8人
電気電子情報工学専攻	8人

（入学資格）

第48条 専攻科に入学できる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- 一 高等専門学校を卒業した者
- 二 短期大学を卒業した者
- 三 専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第132条の規定により大学に編入学することができる者
- 四 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者
- 五 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における14年の課程を修了した者
- 六 我が国において、外国の短期大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における14年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- 七 その他、本校の専攻科が高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者

（入学者の選抜及び入学の許可）

第49条 校長は、専攻科の入学志願者について、別に定めるところにより選抜の上、入学を許可する。

（修業年限及び在学期間）

第50条 専攻科の修業年限は、2年とする。ただし、4年を超えて在学することはできない。

（休学）

第51条 専攻科の学生の休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として、休学期間の延長を認めることができる。

- 2 休学期間は、通算して2年を超えることができない。
- 3 休学期間は、前条に定める修業年限及び在学期間には算入しない。

（教育課程）

第52条 専攻科の授業科目及びその単位数は、別表第3のとおりとする。

- 2 履修方法については、別に定める。

（修了）

第53条 専攻科に2年以上在学し、専攻科の授業科目の62単位以上を修得した者について、修了を認定する。

- 2 校長は、修了を認定した者に対し、所定の修了証書を授与する。
- 3 第1項に規定する単位の修得については、別に定める。

（準用規定）

第54条 専攻科の学生については、第3条から第6条、第12条、第16条、第22条、第24条、第26条から第29条、第33条から第40条、第41条から第44条の規定を準用する。この場合において、第16条第2項及び第28条第2項中「30単位」とあるのは「16単位」と、第28条第1項及び第2項中「外国の高等学校又は大学」とあるのは「外国の大学」と、第44条第2号中「第25条」とあるのは「第51条」とそれぞれ読み替えるものとする。

第55条 本章に定めるもののほか、専攻科に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この学則は、平成26年1月16日から施行する。

1 1. 専攻科における授業科目の履修等に関する規則

専攻科における授業科目の履修等に関する規則

(趣旨)

第1条 この規則は、大分工業高等専門学校（以下「本校」という）学則第5 2条第2項、第5 3条第3項及び第5 5条の規定に基づき、本校専攻科（以下「専攻科」という。）の授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定に関し必要な事項を定めるものとする。

(授業)

第2条 専攻科の授業は、標準50分とし、これをもって1単位時間とする。

ただし、連続して授業を行う場合は、90分の授業をもって2単位時間とする。

2 授業は講義、演習、実験及び実習のいずれか又はこれらの併用により行うものとする。

(単位の計算方法)

第3条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学習等を考慮して次の各号の基準により単位数を計算するものとする。

一 講義については、15単位時間の授業をもって1単位とする。

二 演習については、30単位時間の授業をもって1単位とする。

三 実験及び実習については、45単位時間の授業をもって1単位とする。

(入学前の学習履歴)

第4条 本校専攻科に入学する前に高等専門学校の第4学年及び第5学年次に相当する2年間の学習が必要であり、その間に次の各号の要件を満たしていなければならない。

一 総取得単位数62単位以上

二 修得した科目の授業時間の総計が1050時間以上。ただし、135時間以上の人文科学・社会科学等（語学を含む）、135時間以上の自然科学・数学・情報技術系科目及び550時間以上の専門分野の授業時間を含まなければならない。

2 前項の要件を満たすことなく入学を許可された者は、入学後の科目履修等で補わなければならない。

(履修方法)

第5条 専攻科に関する授業科目の履修にあたっては、年度当初に別に定める「受講科目履修届」を所定の期日までに提出しなければならない。

(試験)

第6条 専攻科の試験は、定期試験、追試験及びその他の試験とする。

2 定期試験は、各学期末に実施する。

3 病気その他やむを得ない理由によって定期試験を受けなかった者には追試験を行うことができる。

(成績評価)

第7条 成績は、授業科目ごとに試験の成績及び平素の学習状況等を総合して評価する。

2 成績の評価は、100点法による評点によって評価し、次の標語により区分する。ただし、100点法による評価が困難な科目については、合格(G)又は不合格とする。

評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	60点未満
評語	AA	A	B	C	D

(単位の認定)

第8条 前条第2項の規定に基づき、AA、A、B、C又は合格(G)に評価された授業科目については、当該授業科目を修得したものとして単位を認定する。

(再履修)

第9条 単位を認定されなかった授業科目は、原則として次年度において再履修することができる。

2 前項により再履修する場合は、第5条の規定を準用する。

(他の専攻の授業科目の修得)

第10条 教育上支障がない場合は、他の専攻の専門選択科目を履修し、単位を修得することができる。

2 前項の規定に基づき修得した単位は、8単位を超えない範囲で専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

(他の大学等で履修した単位の認定)

第11条 大学及び他の高等専門学校等の専攻科等（以下「大学等」という）で開設されている授業科目の履修を希望する者は、あらかじめ大学等の許可及び本校校長の許可を得た上で、受講科目を提出しなければならない。これにより修得した単位は、16単位を超えない範囲で専攻科における授業科目の履修とみなし、単位の修得を認定することができる。

(専攻科の修了要件)

第12条 専攻科の修了には、次の要件を全て満たさなければならない。

- 一 学則第53条に規定する要件のほか、全ての必修科目を修得したと認められること。
- 二 大分工業高等専門学校システムデザイン工学プログラム履修規則第13条第1項のうち第一号から第四号の修了要件を満たしていること。

(専攻科の修了認定)

第13条 専攻科の修了認定は、本校学則及び本規則に基づき専攻科運営委員会において審議の上、校長が行う。

(雑則)

第14条 この規則の定めるもののほか、専攻科の授業科目の履修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、平成23年6月16日から施行し、平成23年度入学生から適用する。ただし、第12条については平成23年度に在籍の学生から適用する。

12. 教育課程表

機械・環境システム工学専攻教育課程表								
平成26年度入学生から適用								
区分	授業科目	単位数	1 前期	1 後期	2 前期	2 後期	必修 選択 の別	備考
一般科目	哲学特論Ⅰ	2			2		必修	
	哲学特論Ⅱ	2				2	選択	
	歴史学特論Ⅰ	2	2				必修	
	歴史学特論Ⅱ	2		2			選択	
	現代英語Ⅰ	2			2		選択	
	現代英語Ⅱ	2				2	選択	
	英語コミュニケーション演習	2	1	1			選択	
	応用数学特論Ⅰ	2	2				選択	
	応用数学特論Ⅱ	2		2			選択	
	物理学特論	2		2			必修	
身体運動の科学	2				2	選択		
一般科目開設単位小計		22	5	7	4	6		
			12		10			
共通専門科目	技術者倫理	2			2		必修	
	宇宙地球科学	2			2		必修	
	環境化学	2			2		必修	
	環境保全工学	2		2			必修	
	数値計算演習	2				2	選択	
プロジェクト演習	1			1		必修		
共通専門科目開設単位小計		11	0	2	7	2		
			2		9			
専門科目	特別研究Ⅰ	6	3	3			必修	
	特別研究Ⅱ	8			4	4	必修	
	プロジェクト実験Ⅰ	3	3				必修	
	プロジェクト実験Ⅱ	1		1			必修	
	専門応用力演習	1			1		選択	
	情報技術実習	2		2			必修	
	実務実習	2	2				選択	
	知的財産論	2				2	選択	
	非線形解析学	2			2		選択	
	弾性力学学	2			2		選択	
	生体材料工学	2			2		選択	
	廃棄物処理工学	2				2	選択	
	水環境工学	2		2			選択	
	材料強度学	2	2				選択	
	塑性加工学	2	2				選択	
	流体力学学	2		2			選択	
	熱流体計測	2				2	選択	
	熱物質移動論	2	2				選択	
	知能機械情報学	2	2				選択	
	混相流工学	2		2			選択	
センサ工学	2		2			選択		
耐震構造解析学	2	2				選択		
地域計画学	2			2		選択		
環境地盤工学	2	2				選択		
交通システム工学	2		2			選択		
コンクリート診断学	2				2	選択		
造形デザイン	2	2				選択		
専門科目開設単位小計		63	22	16	13	12		
			38		25			
全科目開設単位合計		96	27	25	24	20		
注 1) 大学等で修得した単位は、16単位を限度として修得単位数に加えることができる。								
注 2) 他の専攻で開設されている選択科目で修得した単位は、8単位を限度として修得単位に加えることができる。								

電気電子情報工学専攻教育課程表

平成26年度入学生から適用

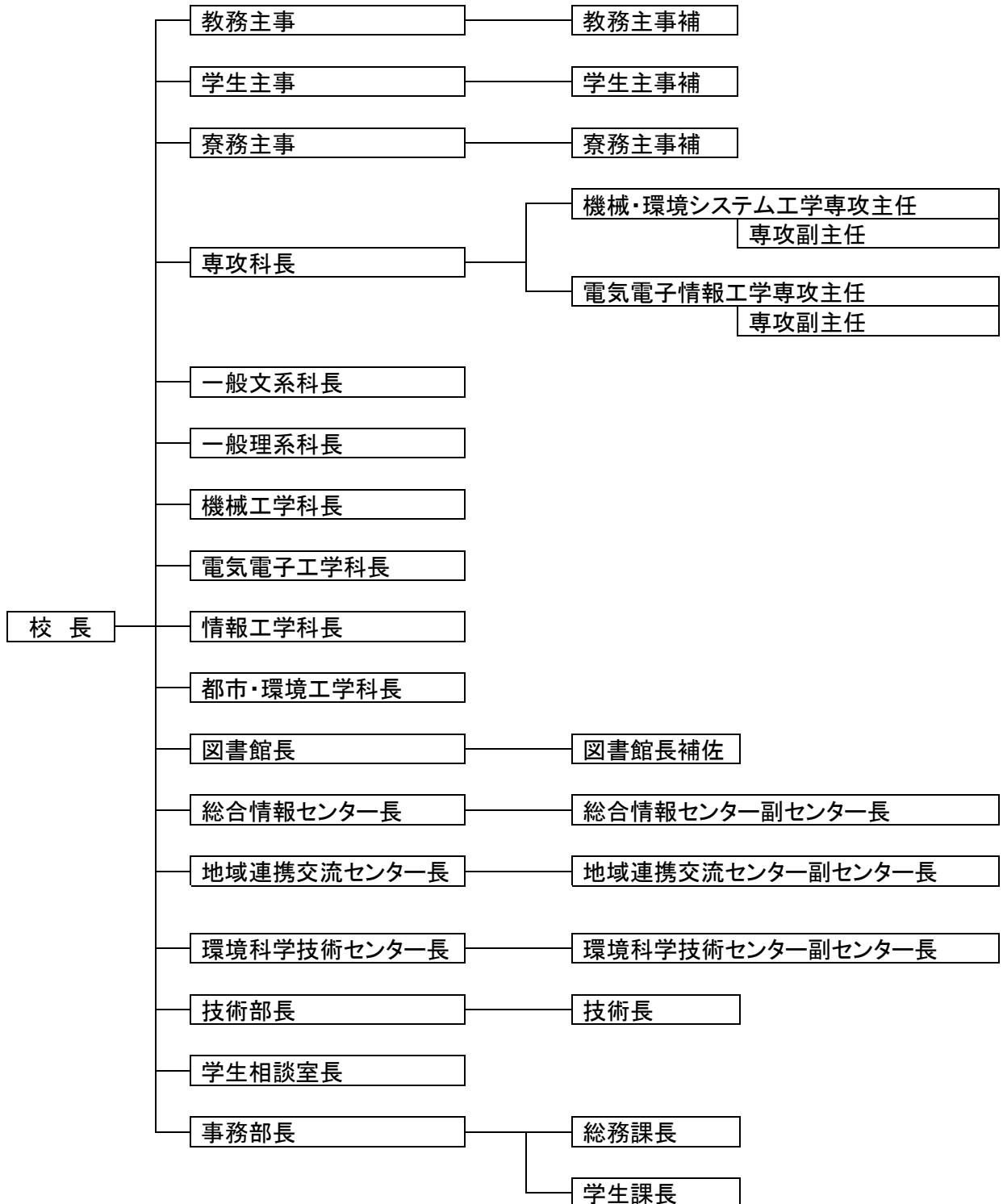
区分	授 業 科 目	単位数	学年別配当 (単位数)				必修 選択 の別	備 考
			1 年		2 年			
			前期	後期	前期	後期		
一 般 科 目	哲 学 特 論 I	2			2		必修	
	哲 学 特 論 II	2				2	選択	
	歴 史 学 特 論 I	2	2				必修	
	歴 史 学 特 論 II	2		2			選択	
	現 代 英 語 I	2			2		選択	
	現 代 英 語 II	2				2	選択	
	英語コミュニケーション演習	2	1	1			選択	
	応 用 数 学 特 論 I	2	2				選択	
	応 用 数 学 特 論 II	2		2			選択	
	物 理 学 特 論	2		2			必修	
身 体 運 動 の 科 学	2				2	選択		
一般科目開設単位小計		22	5	7	4	6		
			12		10			
共 通 専 門 科 目	技 術 者 倫 理	2			2		必修	
	宇 宙 地 球 科 学	2			2		必修	
	環 境 化 学	2			2		必修	
	環 境 保 全 工 学	2		2			必修	
	数 値 計 算	2				2	選択	
プ ロ ジ ェ ク ト 演 習	1			1		必修		
共通専門科目開設単位小計		11	0	2	7	2		
			2		9			
専 門 科 目	特 別 研 究 I	6	3	3			必修	
	特 別 研 究 II	8			4	4	必修	
	プ ロ ジ ェ ク ト 実 験 I	3	3				必修	
	プ ロ ジ ェ ク ト 実 験 II	1		1			必修	
	プ ロ ジ ェ ク ト 実 験 III	1			1		必修	
	実 務 実 習	2	2				選択	
	シ ス テ ム 数 理 工 学	2	2				選択	
	シ ス テ ム 制 御 理 論	2	2				選択	
	信 号 処 理 論	2	2				選択	
	電 子 物 性	2	2				選択	
	プ ラ ズ マ 工 学	2	2				選択	
	情 報 セ キ ュ リ テ ィ ー	2	2				選択	
	パ タ ー ン 認 識	2	2				選択	
	数 理 論 理 学	2		2			選択	
	非 線 形 シ ス テ ム	2		2			選択	
	セ ン サ 工 学	2		2			選択	
	パ ワ ー エ レ ク ト ロ ニ ク ス 特 論	2		2			選択	
	情 報 ネ ッ ト ワ ー ク	2		2			選択	
	生 体 情 報 工 学	2		2			選択	
	光 画 像 工 学	2			2		選択	
ア ル ゴ リ ズ ム 特 論	2			2		選択		
オ ペ レ ー テ ィ ン グ シ ス テ ム	2			2		選択		
知 的 財 産 論	2				2	選択		
廃 棄 物 処 理 工 学	2				2	選択		
専門科目開設単位小計		57	22	16	11	8		
			38		19			
全科目開設単位合計		90	27	25	22	16		

注 1) 大学等で修得した単位は、16単位を限度として修得単位数に加えることができる。

2) 他の専攻で開設されている選択科目で修得した単位は、8単位を限度として修得単位に加えることができる。

13. 大分高専組織図

大分高専組織図



14. 教員組織(平成26年度)

校 長	古 川 明 徳
主事等	
教 務 主 事 (副校長)	高 橋 徹
学 生 主 事	工 藤 康 紀
寮 務 主 事	山 田 繁 伸
専 攻 科 長	薬師寺 輝 敏
専 攻 主 任	
機械・環境システム工学専攻主任	小 西 忠 司
副 主 任	田 中 孝 典
電気電子情報工学専攻主任	清 武 博 文
副 主 任	嶋 田 浩 和
学科長等	
一 般 文 系 科 長	穴 井 孝 義
一 般 理 系 科 長	佐 藤 達 郎
機 械 工 学 科 長	松 本 佳 久
電 気 電 子 工 学 科 長	佐 藤 秀 則
情 報 工 学 科 長	岡 茂 八 郎
都 市 ・ 環 境 工 学 科 長	一 宮 一 夫
図 書 館 長	穴 井 孝 義
総 合 情 報 セ ン タ ー 長	嶋 田 浩 和
地 域 連 携 交 流 セ ン タ ー 長	吉 澤 宣 之
環 境 科 学 技 術 セ ン タ ー 長	亀 野 辰 三
技 術 部 長	吉 澤 宣 之
国 際 交 流 委 員 会 委 員 長	大 木 正 明
学 生 相 談 室 長	佐 藤 達 郎

15. 専攻科提出書類(抜粋)

専攻科提出書類(抜粋)

専攻科における各種提出書類の抜粋です。

学生の皆さんは、各自電子ファイルをダウンロードして、指示に従って提出ください。提出書類のほとんどは、最新版を専攻科ホームページの「学内申請書類(学内専用)」に電子ファイルで掲載しています。それらをダウンロードして提出してください。

注意：専攻科生の使用できる書類は、全ての提出書類左上に「専攻科〇〇」と書かれています。必ずこの記載のある書類を使用してください。

(すなわち、書類左上に「専攻科〇〇」の記載のない書類は、本科生用の書類であるため、原則受理されないので注意すること！)

教育支援係、学生支援係は、総合研究棟玄関に入って右の学生課の中にあります。
PDFファイルの閲覧は、Adobe Acrobat Readerをインストールしてください。